



発行：飯能市教育委員会教育部生涯学習課（文化財担当） 〒357-8501 飯能市大字双柳1-1 Tel (042)973-2111  
第10号 平成27年3月31日発行 平成18年3月31日創刊

## 飯能の植物を学ぼう

### ● 第10号の特集は「飯能の植物」

「飯能市は植物の宝庫」は今回が最終回となります。そこで、最後に名栗地区の植物について4ページにわたって特集しました。

これまで市内に自生している様々な植物について紹介してきましたが、この特集が飯能市の植物に関心を持ち、保護していくための一助となれば幸いです。

特集「飯能の植物」

### 飯能市は植物の宝庫(VI) —名栗の植物—

日本薬科大学  
山下 裕

**1** **はじめに** 旧名栗村の地域は、西は秩父市や横瀬町に、南は東京都青梅市や奥多摩町に接しています。大部分が山間部で占められていて、その一部には石灰岩地という特異的な場所があります。そこには、石灰岩地固有の植物が見られます。また、<sup>なごう</sup>名郷を中心に奥武蔵の山々の登山ルートがあります。ハイキングがてら植物の散策探究も楽しいと思います。

**2** **石灰岩地の植物** <sup>せみざす</sup>蟬指石灰岩地は、名郷から武川岳方面に行くところで、登山口にはモミ林があります。そこから少し登った急傾斜地に、クマシデ、イヌシデ、イタヤカエデ等の林とミズナラ林があります。ここは県の特定植物群落に指定されています。

また、以前に記録されたキヌタソウ-ミズナラ群落並びにクマシデ群落が、小規模ながら残っており、稜線にはカヤの高木があります。石灰岩地の大部分は、採石によって消滅していますが、これら群落は、二次林であっても貴重な<sup>りんぷん</sup>林分には違いありません。

草本類は、春はカタクリの群落をはじめ、イカリソウ、ヒトリシズカ、フデリンドウ、アケボノスミレ、ヒナスミレ、センボンヤリなど。初夏にはユウシュンラン、ヤマウツボ、マルバサンキライ、マルミノウルシなど。武

川岳登山口近くにはモミ林及びフユザンショウなど。山頂付近にはカタクリの群落もみられます。



イカリソウ



フデリンドウ

白岩方面の石灰岩採掘地域は、鳥首峠から少し名郷方面に下ったところで、石灰岩の岩壁に生育しているキンモウウラビ、ミヤマウラジロ、ヤハズハハコなどの植物が生育しています。

**3** **ウノタワ (入間川源流域) の植物** 入間川と浦山川の分水嶺になっている大持山から鳥首峠にかけての稜線に、尾根が少し低くなっているところがあります。ここがウノタワです。この沢を横倉入といい、大持山から流れ出す入間川の源流です。この沢沿いには

サワグルミの林がみられます。シオジ林と並んで冷温帯の代表的な溪畔林けいはんりんのひとつです。春先この林床には、トウゴクサバノオ、ハナネコノメ、ヤマエンゴサクなど山地性の植物が生育しています。ウノタワ方面にしばらく急坂を登っていくとクリミズナラ林になります。林床にはシコクスミレ、ヒナスミレ、ナガバノスミレサイシンなどのスミレ類。また、カタクリなどが生育しています。



ユウシュラン



ヤマエンゴサク



ヤマウツボ



トウゴクサバノオ



ウノタワの風景

稜線に出たところがウノタワです。20年ぐらい前はここが湿原になっていたそうで、ノハナショウブやヤマシャクヤクなどが自生していたそうです。現在はシカの食害の為、丈の大きな草本類はなく、だいぶ乾燥した状態になっています。稜線にはブナが見られます。飯能市側は大径木が散在しています。秩父市側には所々まとまったブナ林になっています。

**4** しらやさわ **白谷沢から棒ノ峰（棒ノ折山）の植物** 河又地区の龍泉寺社寺林には、ウラジロガシ、ツクバネガシの混生林があり、稜線にはモミの木もあり、林床がシキミーベニシダ群落になっています。冷温帯から暖温帯への移行部森林植生が見られます。

河又から直接棒ノ峰へ登る滝ノ平尾根には、アズマシライトソウの大群落とヒイラギソウ、オオバチドメ、コミヤマスマミレなどが生育しています。

白谷沢沿いの登山道は、有間ダムから直接棒ノ峰へ登り、東京都側に下山するルートになっていて、休日は登山者が多いです。沢沿いに行くルートなので、比較的植物の種類が多いです。葉の中軸先端に無性芽むせいが（新しい個体）をつけて群生するフジシダ。岸壁に垂れ下がるシシラン。中軸が黒っぽくて漆塗りのように見えるウスヒメワラビなどのシダ植物。時期によってはヤマブキソウやヒイラギソウなどの黄色や紫色の花。ツツジ科のイワナンテンの白い花が垂れ下がっていたり、溪流の植物が目に入ります。



白谷沢の溪流



ヤマブキソウ

**5** **山伏峠～伊豆ヶ岳～旧正丸峠** 山伏峠から伊豆ヶ岳方面に登っていくと、しばらくはスギ、ヒノキの植林です。しばらくして最初の鞍部に出ます。

南側は急斜面の為、植林ができず、小規模の広葉樹林が残っています。その反対の北側斜面には、カタクリの群落もあります。シカの食害のせいか、下草がきれいになっていません。しばらく乾燥した山道を行くと伊豆ヶ岳山頂に到着します。春先はミツバツツジのきれいなところですが、ここから正丸峠経由で、名栗げんきプラザ方面に車道(旧道)を下山すると、意外と多くの植物が見られます。やや乾燥したところにはミツバベンケイソウ、ヒメウラジロ、ミヤマウラジロ。暗く湿ったところには、コミヤマスミレなど。圧巻はヒラギソウの大群落です。

シカが食べないのか、花の時期には庭先の植物のように手入れされている姿が美しいです。また、げんきプラザ



ヒラギソウの群落



ヒラギソウ

の近くには、沢沿いにザゼンソウの小規模な群落があります。その下流の横瀬町にはザゼンソウの保護区があります。以前はヤワタソウなども見られました。

6

番外編 旧名栗村の花「イワウチワ」

旧名栗村の「花」はイワウチワ(イワウメ科)です。

深山の林の下などに生える常緑の多年草で、群生している場合が多いです。吾野の高山不動尊などにも群生が見られます。以前、川又から棒ノ峰林道へ行く滝ノ平尾根で、ピンク色の大きな花を咲かせているのを見かけました。草丈は小さいですが、その割には大きな花を付けますので、山登りをしている時にその花を見かけると心が和みます。清楚な花です。



イワウチワ